

カールスト・デ・ヨング先生 即興演奏講座 報告書

10月18日(木) L302、 フォロアップレッスン 10月22日(月) L304

即興演奏のプロ奏者カールスト・デ・ヨング氏がお見えになり、即興演奏の実践的レッスンを行なっていただきました。カールスト先生は受講した多様な学生(ピアノ、フルート、音楽教育、ジャズ、作曲)に応じて、いろんなスタイルや方法で触発的、創造的、そして知的な音楽を学生と共に、その場で繰り広げられました。学生の直接の声がレッスン内容を如実に語っているのです、そちらを是非お読みください。

カールスト先生は、オランダのハーグ王立音楽院及びスペインのカタルーニャ高等音楽大学で教鞭を取り、シンガポール大学での短期集中講師を勤めたり、ヨーロッパ Erasmus 即興プロジェクトに関わったりと、新しい音楽の可能性を追求する活動を国際的に展開中。



公開レッスンを終えての感想

カールスト先生のレッスンを受講して、楽曲をさらうことの楽しさを受け止めさせていただきました。私は、ピアノの前に座って即興的に演奏することは幼いころから好きでよく遊んでいたのですが楽譜を見るということがあまり好きではなく、即興と楽譜を見て演奏するという事に境界線があったのですが、レッスンでそれらの関連するポイントが見えた気がします。

また、先生のピアノ弾いていらっしゃる姿や音の使い方をしたり聴いたりしている時間がとても有意義な時間であり、音楽に関して様々なことを発見することができました。これからたくさんのことを見つけていければと思います。

偉大なピアニスト、カールスト・デ・ヨング氏の懐の深さ、色彩の多さ、そして即興の楽しさを感じることができました。普段は即興演奏にあまり接していない私ですら、先生とフリーセッションする事でメロディが引き出され、どこへ行こうか、と演奏の中で問いかけてくださり、何処へでも連れて行ってもらえる感覚に幸福を覚えました。それと同時に、自分のパレットの少なさから、‘こうしたい’が瞬時に浮かばずもどかしさもありました。方法として、例えばアルペジオで順番に音を辿るだけではなく、半音下から、一音上から、などを付け加える方法がある事を知りました。これが瞬時にできたらカッコいいなあと、密かに練習しています。このように素材を用意しておくことも必要であると教えていただきました。また、もっとも重要なことはコミュニケーションなのでは、とも思いました。演奏の中で先生が問いかけてくださったように、演奏が終わった後も生徒がどのように感じたかを必ず質問し、考えさせてくださいました。対話やコミュニケーションがその人自身である音楽に旨味や輝きを影響させ、演奏の幅も広がる印象を持ちました。とにかく楽しかったです！大類先生にもとてもとても感謝致します。どうもありがとうございました。

今回、ヨング先生のレッスンを受けてみて、即興をするときは、きっちりと弾こうと思わなくていいというのが印象的でした。元々私は即興をするのが苦手で、楽譜に書いてある音しか弾けないタイプなのですが、間違いを気にしないことで自由になり、音楽的にもなることを学びました。

また、アンサンブルで即興をするときは、相手の音をよく聞いた上で真似したり対話したりすることが大切だと改めて感じました。アンサンブルをする際は普段から気をつけているのですが、即興という楽譜のない状態で行うからこそ、相手と音楽の会話を続けるためには相手を見る他なくなり、それによって能力が養われていくものだと実感しました。今、ベートーヴェンのトリオを演奏しているのですが、それを活かして演奏しようと思っています。今回のレッスンは私のためになりました。また機会があれば是非受講したいです。

ヨング先生があたたかく迎えてくださり、自然と「さあ表現したい！」という気持ちにさせて頂きました。その上で、何かルールを決めることで、たくさんのアイディアが生まれてくることを教えて頂きました。

また、アルペジオ、スケール、オーナメント（上からはスケールトーン、下からは半音）など、とても具体的に分かりやすいことを教えていただきとてもためになりました。

そのように思ってCDを聴いたり、トランスクリプトしたり、弾いたりしてみたいと思います。

私は卒業になりますが、ぜひたくさんの方に、またジャズコースの方にもぜひ勧めたいと思っています。
大類先生にも通訳していただき、安心して受講することができました。
こんな機会は滅多にないことだろうと思います。本当にありがとうございました。

即興というと才能がある人がフィーリングで演奏するようなイメージがありましたが、それだけではないということを知りました。具体的には、音の制限を設けておくことで、私のようにあまり楽器が習熟していない人でも、参加できるということです。2音のみをつかって演奏、半音階での演奏、スケールを上り下りしながら追いかけるような演奏、あとペントニックスケールなどを用いる音楽では、どの音を吹いても大きく間違えるということがないので、安心感がありました。レベルの設定によっては誰にでも参加が可能でありそうなところがいいなと思いました。

しかしブルースはあまりうまく吹けませんでした。私の能力的にブルーススケールがふけるかあやしかった状態というものもあり、不勉強を反省すべき部分なのですが、ブルースにおいてはリズム感など音階以外もかなり重要度が高い要素なのだろうと実感しました。もしブルースで即興を授業として使うのであれば、音階のほかに重要な要素（リズム感、旋律の流れ、雰囲気もあると思います）があるということを徐々に学習していく必要があります。

ここまでは、音楽教育コースの学生としての感想で、次に個人的に感じた些細なことなのですが、金曜日にピアノコースの方と演奏したときには、はじめは拍節のない演奏でしたが徐々にリズムをつくっていくことを学びました。「楽譜にリズムが書いてあるからリズムがある」とか、「ほかのリズムに合わせる」ではなく、自分でリズムをつくるということはいままでになかったもので、新鮮でした。演奏家の方たちがいう、自分で音楽を創るということは、こういうかんじなのかなと思いました。

カールスト先生はもっと内面的な音楽とのかかわりや、コミュニケーションを考えていらっしゃったと思うのですが、そこまでついていけません。それと、もちろん教師側になったらカールスト先生がそうしてくれたように自分が生徒に合わせる技量を持たなくてはいけないので、（カールスト先生の域を目指せないにしても）、訓練は必要なんだと思います。それも、ペントニックのように音が決まっている、とか、ブルースコードのようにパターンがあるものが、弾けるようになるだけでもいいなと思いました。

【レッスンを受講しようと思ったきっかけ】

僕はジャズコースの学生ですが、平野公崇先生の即興演奏講座を受講しており、Free Improvisationにも関心が強かったので、

ポータルの掲示を見て今回の公開レッスンを受けてみようと思いました。

【Karst De Jong さんについて】

Karst De Jong さんがどういう方なのか、事前に軽く調べさせていただいて、Classic と Improvisation を中心に演奏していて、時折 Jazz Standard なども演奏することがわかりました。

【実際にレッスンを受けてみて】

初日のレッスンは、彼が弾き始めた Butterfly (Herbie Hancock) のイントロから始まりました。(個人的に大好きな曲だったのでびっくりしました!) そこから展開を経て、よりフリーな方向へ行き、終わりました。

次に、Free Improvisation を一曲。オリエンタルなムードを纏った不思議なアンサンブルが構築されました。これは中々の出来だったと思います!

他にも、Standard 曲 All the things you are (Jarome Kern) をバロック調に Classified (クラシック化) するテクニックや、即興演奏アンサンブルにおいて 3R (Rule, Roll, Restriction) など、30 分という短い時間の中で様々な事を教えて頂き、最後に彼から「来週は何かジャズスタンダードを持ってきてね!」と連絡があり、初日のレッスンは終了しました。

そして、今回大変お世話になった大類先生、Karst De Jong さんのご厚意で、一週間後にフォローアップレッスンをしていただけることになりました。

【フォローアップレッスン】

一週間経ち、前回伝えられた通り、Standard 曲の On Green Dolphin Street (Bronislaw Kaper) を演奏しました。この曲は ABAC のフォームを持っていて、A セクションは E $\flat$ ペダルが保持され、コードの内容が変化していきます。(E $\flat$ maj7 / E $\flat$ -7 / F/E $\flat$ / E/E $\flat$ / Ebmaj7 / G-7 C7) 何回かこの曲を Karst さんとセッションし、回を重ねる毎にフリーな傾向が強まって行きました。途中、Karst さんが、この曲の構成を他の学生に向けて説明する場面もあり、クラシックの学生の方たちにも、少し理解が深まったのではないのでしょうか。(この曲は Pedal Tone, Two-Five Motion の 2 つの要素だけでコード進行が作られているので、題材としてもわかりやすかったと思います)

最後に握手と写真撮影をして、すべての日程が終了しました。

【レッスンを終えての感想】

今回のレッスンは大変有意義なものであったと思います。まず、プロの即興演奏家と Free Improvisation のセッションが出来たことがとても貴重な体験でした。また、Karst さんはクラシックを演奏される方ですが、「もはやジャズも 100 年の歴史があるのだから、クラシックと見なすことも出来る。そしてそこからインスピレーションを受けて演奏するんだ。」と仰っていて(だいぶ意識ですが)、そのような彼の視点にハッとさせられるようなことがいくつもありました。今回の公開レッスンを受けてみて、今後に活かせそうなことを沢山吸収できて、とても良かったです。

